

調査資料

『図画教育通信』目次(1)  
——第168信(大正10年10月1日)～  
第204信(大正14年10月1日)——

亀澤 朋恵

A table of contents “Zuga-Kyoiku Tsushin” (1)  
— from No.168 (Oct.1921) to No.204 (Oct.1925) —

KAMEZAWA Tomoe

## 1. はじめに

本稿は『図画教育通信』の目次の一覧である。『図画教育通信』は、山形寛『日本美術教育史』(1967, 黎明書房)において明治30年代以降に刊行された美術教育雑誌の一つとして紹介され、「うすっぺらなものであったが、川村個人の編修発行にかかったもので昭和のはじめ頃まで出ていた」<sup>1</sup>と評されたものである。また、同誌については、山本鼎『自由画教育』の「反対者に」という項で、山本への意見を掲載した媒体の一つとして「『図画教育通信』6、7、8、9月号」という記述があったものであるが<sup>2</sup>、長らく所在が確認できなかったものである<sup>3</sup>。

史料的价值を鑑み、戦前期の中等図画教育の実態を解明するための基礎資料づくりとして目次を作成し、文末の表1にまとめた。途中欠落があるが、第168信(1921〈大正10〉年10月1日発行)から、第237信(1928〈昭和3〉年10月10日発行)まで計42号分確認できた。紙幅の都合上、本稿では第168信(1924〈大正13〉年10月1日発行)から第204信(1925〈大正14〉年10月1日発行)までとする。特記事項は備考欄に「※」を付し、註に補足説明を加えた。

## 2. 基本情報

### 2-1. 創刊年月日、発行所

創刊は1911(明治44)年4月17日。終刊時期は不明であるが、少なくとも1928(昭和3)年10月までは刊行されていた。基本的には毎月1回、15日に発行された。

発行所は「図画教育通信社」であった。広告などには、「印刷部」「展覧部」「写真部」や、同社主催の講習会といった記述が見られ、同社は通信の発行のほか、いくつか活動を展開していた様子である。

## 2-2. 編集者

主事は川村東陽。本名は川村孝。生没年は不明であるが、明治30年代から40年代に関東地方の中学校で図画教員をしていた人物である。1902(明治35)年東美術学校日本画科卒業後、自営を経て<sup>4</sup>、1903(明治36)年から群馬県前橋中学<sup>5</sup>、1910(明治43)年から攻玉会中学校で勤務した<sup>6</sup>。中学校用の用器画教科書も著しており、1911(明治44)年に『用器画教科書 平面幾何図法』、『用器画教科書 投影図法』(上巻・下巻)、1912(明治45)年には『用器画教科書 透視図法』(すべて晩成処発行)を、小島憲之(第一高等学校・東京美術学校教授)と共著で刊行した。

図画教育通信社の川村以外の構成員の氏名や組織の規模については判然としない。

## 2-3. 形態、ページ構成

『図画教育通信』は折りたたみ式のリーフレット状の形態で、表紙はない(図1)。大きさは四六判16切(197mm×272mm)。ページ数は4ページまたは6ページで、紙面にページ番号は付されていない<sup>7</sup>。

紙面は記事の内容により2～4段組で構成された。図画教員の紹介や講習会の様子は写真付きで報じられているものが多い。毎号、最終ページは広告であり、図画教育通信社主催の講習会、同社の「写真部」や「展覧部」などの告知、書籍の取次案内、同社が取り扱う製図器や模型などが紹介された(図2)。広告欄は図画教育通信社の活動の様子が看取できるため、広告の内容(タイトル)も表1の一覧に記した。なお、価格の記載はなく、流通経路も不明である。



図 1.1 ページ目

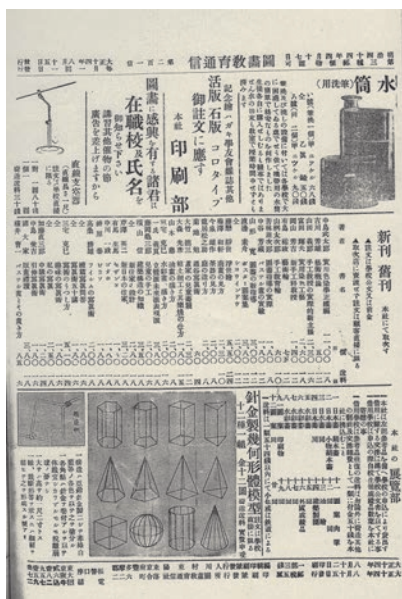


図 2. 最終ページ 広告欄

### 3. 内容

#### 3-1. 概要

記事は題名と記名（川村東陽または東陽）があるもの、記名だけがないもの、題名も記名もないものが混在しているが、いずれも川村のものであろう。題名も記名もないものは、たとえば、図1の1段目のように「▲我国は国土が狭くて人口が多い ▲生活に必要な品さへ国産のみでは足らぬ……」という具合に突然文章が始まる。このような記事は、表1中、冒頭の1行または段落のみ記し、備考欄に（※1）と付したものである。また、これらはレイアウトや文言の一部を変更、または追加しながら、複数号にわたって繰り返し掲載された。

川村が執筆したと思われる記事の内容を大まかに分類すると、第1に図画教育の意義、第2に学用品の取り扱いや品質について、第3に図画教員のあり方について、の3種類に分けられるであろう。これらについては次項以降に敷衍して、若干の検討をしておきたい。

その他は、全国の図画教員の異動を報じた「動静」、図画教育通信社主催の講習会の告知や開催報告、「文検」<sup>8</sup>の「図画科」および「手工科」の試験問題や関連情報であった。

また、「論談」、「外職彙報」、「其の人は抑も誰ぞ」等で紹介された図画教員たちの図画教育に対する見解や自身の来歴、近況、勤務先の中等教育現場の実状などへの言及は、教育現場や実践の実態が示唆される。

#### 3-2. 図画教育の意義について

川村が考える図画教育の意義は、「▲我国は国土が狭くて人口が多い」という文章に集約されるであろう。これはほぼ毎号巻頭に掲載された文章である。それによれば、天然資源の乏しいわが国は加工業で立国せねばならず、「僅少なる原料を用ひて高価なる品を作らんとするには優秀なる技術と高尚なる美化とがあつてこれをなし得るのであ」<sup>9</sup>り、「小学校中学校等に於て課する図画科は実にその基礎知識と技能とを養成するものとして一大権威を有するのである」<sup>10</sup>とある。社会的視点に立脚し、図画教育がどのように貢献しうるかという観点から図画教育の価値をとらえ、図画教育の美的価値はもとより技術的側面に着目していたようである。

#### 3-3. 学用品の取り扱いについて

学用品の取り扱いについては、「学用品は購買部を設けて製造元を直接取引すべきが理想である」、「▲現在学校教育の欠陥大弊は社会の實際を無視し生活の實際と没交渉なのである」など、複数の文章において言及された。それらは、「全国学校が学年始めに一斉に学用品を調達する事などは困つた事だそれは学校側が製造者の粗製乱造を強ふるようなもの」<sup>11</sup>で、学校の学用品の購入のしかたが社会の一般常識と異なり、年度初めに大量に発注することで粗製乱造を招き品質を低下させる。だから学校に「購買部」など専門の部署を設けて効率化すべきという趣旨であった。

当時の学用品の購入に関する学校の慣行について言及しうる判断材料をもたないため、本稿

ではこの主張についての評価はしかねるが、自社でも画材を取り扱っていた関係上、とくに関心を寄せていたことがうかがえる。

### 3-4. 図画教員のあり方について

図画教員のあり方についての見解にも紙幅が割かれ、「図画教員の将来に光輝あるか」「図画教員前途への曙光」などが該当する。「図画教員の将来の光輝あるか」では、「教員の死活は即ち図画教育の死活（中略）何年勤続しても一生之に捧げても待遇は依然昇らない」<sup>12</sup>と図画教員の置かれた現状を述べ、待遇を向上させるためには自ら「外職」を開拓することであると提言する。

ここで言う「外職」とは、「教室外の仕事、学校外の事業を云ふのである製作著作等は元より自己の知識技能を応用して国家社会に貢献する総てを指すのである併も報酬の如何は眼中に置かぬ」<sup>13</sup>ということであった。この趣旨が「外職彙報」につながり、ここでは図画教育を通して培った知見と技能を活かし、自ら学校外の仕事に作家や著作家などの道を開拓して活躍する図画教員が紹介された。

図画教育の実践については、「教授法とやら教壇上での手振身振口の先で如何に達者な事を云ふたとて其れが何になる（中略）熱誠以て子弟に臨み実践躬行其の範を示す之れ教授法の奥義（中略）図画教師は須らく自ら作らねばならぬ」という文章で言及され、表面上の教育技術ではなく、自ら作品を作り続けることと説いた。また、「特別教室などは手緩い実習室を作って自由に製作の機会と便宜を与へなくては」<sup>14</sup>など、環境整備にも触れていた。

「其の人は抑も誰ぞ」では全国各地の勤続年数の長い教員が紹介された。その前置きに「甲校に一年乙校に二年転々又転々果して真の教育者たり得るや（中略）己れか播種の萌芽して枝葉を調へ地を圧し二十年にして天を覆ふ大樹となるを見るのは楽に単に教育者に於てのみ味ひ得る至快にしてまた理想なるべし」<sup>15</sup>と記され、一つの地に長く腰を据えて実践していた図画教員を教育者としての理想として示した。

これらを総合すると、図画教員とは図画教育を通して自らの力量を高め続け、その力量をもって地域や社会に根ざして貢献するという姿が想起される。

## 4. おわりに

今後の課題は目次一覧の完成である。加えて、本稿では概要の把握にとどまったため、個々の記事の内容については稿を改めて検討したい。

内容を概観した上で、『図画教育通信』の特徴を挙げるとすれば、戦前期の中等図画教員の力量形成やキャリア形成、図画科の授業をとりまく実態をとらえる観点から示唆に富む史料であるといえる。

最後に、本稿で用いた史料は大分県立美術館から提供して頂いた。略儀ながら、この場を借りて御礼申し上げたい。

## 【謝辞】

この研究の一部は、JPSF 科研費（15K17373）の助成を受けたものです。

## 【付記】

表記は常用漢字、現代仮名遣いに改めた。

## 註

- 
- 1 山形寛, 『日本美術教育史』, 黎明書房, 1967, p.487
  - 2 山本鼎, 『自由画教育』, アルス, 1921, p.154
  - 3 「文検図画科」教員のライフヒストリー研究の作業過程において、版画家・武藤完一の調査をしている際に、大分県立美術館の資料から発見した。そのままのものと、まとめて表紙をつけて綴じ込まれた形で保管されていたものがあつた。綴じ込まれたものは中央部分が一部判読不能である。調査を継続しているが、2018年9月現在新たな発見はない。
  - 4 『東京美術学校一覧 自明治三十五年至明治三十六年』, p.102
  - 5 金子一夫, 『近代日本美術教育の研究 明治時代』, 中央公美術出版, 1992, p.488
  - 6 金子, 前掲註 5, p.512
  - 7 一覧のページ数は、記事の並びに沿って便宜上筆者が付したものである。
  - 8 「文検」の正式名称は「文部省師範学校中学校高等女学校教員検定試験」である。戦前期に行われた国家資格試験であり、試験に合格すれば中等教員免許状が取得できた。
  - 9 『図画教育通信』, 188. 図画教育通信社. 1924. p.1
  - 10 前掲註 9, 同上
  - 11 前掲註 9, 同上
  - 12 川村東陽, 「図画教員の将来に光輝あるか」, 『図画教育通信』, 188. 図画教育通信社. 1924. p.2
  - 13 前掲註 12, 同上
  - 14 『図画教育通信』, 193. 図画教育通信社. 1924. p.3
  - 15 前掲註 14, 同上, p.1

表 1. 『図画教育通信』第 168 信～第 204 信 目次

第 168 信 大正 10 年 10 月 1 日発行

題名	筆者	頁	備考
談論		1	
赤津隆助氏（青山師範教諭）曰く			
小野寺英二郎氏（樺太中学教諭）曰く		1	
前田千寸氏（沼津中学教諭）曰く		1	
夜寒さの月古池に残りけり	愚哉	1	
小生昨年未よりチフスにて加療中、	川村東陽	1	※2
美化よりも装飾 装飾よりも粉飾 粉飾よりも虚飾 虚飾よりも虚勢	東陽	1	
図画教員の前途へ曙光（三）		2	
小塚義一郎氏の高崎高女の人形展覧会		2	
動静		3	
初嵐京と近江の境かな	愚哉		
建議		3	
時報		3	
秋の日の照りそこなふて暮にけり	愚哉	3	
本年度文検予備試験問題		3	
大正十年十月一日現在 学用品時価表		4	※3

第 169 信～第 187 信 （欠落）

第 188 信 大正 13 年 2 月 1 日発行

題名	筆者	頁	備考
▲我国は国土が狭くて人口が多い		1	※1
学用品は購買部を設けて製造元と直接取引すべきが理想である		1	※1
新刊 旧刊 本社にて取次す		2	※3
動静		2	

春かせの磯をはかるゝ小船かな	愚哉	2	
本社主催講習会予定日割		2	※3
●図画教員の将来に光輝あるか	川村東陽	2	
●義務教育年限延長を期として本社が高小の図画科復活のウン動		3	
外職彙報 十四 藤岡中学校教諭 大橋三平氏の第二回講習会		3	
其後の理想団入団者氏名		4	※3
新刊 旧刊 本社にて取次す		4	※3
図画教育理想団規約		4	※3
註文は学校直接に限る 直線支空器		4	※3
本社の展覧部		4	※3
文検模擬試験会		4	※3
針金製幾何形体模型		4	※3

第 189 信～第 192 信 (欠落)

第 193 信 大正 13 年 12 月 1 日発行

題名	筆者	頁	備考
▲我国は国土が狭くて人口が多い		1	※1
其の人とは抑も誰ぞ 徳島県師範学校教諭 須木次郎吉氏はなり		1	
動静		1	
松原の日向の草のもみじかな	愚哉	1	
文部省中等教員検定予備試験問題 (第四十回)		2	
●図画科		2	
●手工科		2	
文部省中等教員検定本試験問題 (第四十回)		2	
●図画科		2	
●手工科		3	
教授法とやら教壇上での手振身振口の先で如何に達者な事を云ふたとて其れが何になる		3	※1



●図画教員の将来に光輝あるか	川村東陽	3	
本社主催第十一回講習会		4	※3
●水筒		4	※3
注文は学校直接に限る 直線支空器		4	※3
本社の展覧部		4	※3
新刊 旧刊 本社にて取次す		4	※3
針金製幾何形体模型		4	※3

第 194 信～195 信 (欠落)

第 196 信 大正 14 年 3 月 1 日発行

題名	筆者	頁	備考
▲我国は国土が狭くて人口が多い		1	※1
図画教員の将来に光輝あるか	川村東陽	1	
其の人とは抑も誰ぞ 八幡商業に勤続二十五年の上田富太郎氏		2	
滋賀県女子師範に勤続二十年の北垣巳之助氏		2	
▲現在学校教育の欠陥大弊は社会の實際を無視し生活の實際と没交渉なのである		2	※1
本年度美術学校師範科卒業生氏名及就職先		3	
動静		3	
日暮れて人なき梅の茶屋に入る	愚哉	3	
▲学用品の価格昂騰供給遅延或は粗製濫造を防止せんには全国学校が成るべく		4	※1
図画に感興を有する諸君は在職校及氏名を御知らせください講習其他催物の節広告を差し上げますから		4	※3
●水筒		4	※3
注文は学校直接に限る 直線支空器		4	※3
本社の展覧部		4	※3
新刊 旧刊 本社にて取次す		4	※3



針金製幾何形体模型		4	※3
-----------	--	---	----

第 197 信 (欠落)

第 198 信 大正 14 年 5 月 1 日発行

題名	筆者	頁	備考
▲我国は国土が狭くて人口が多い		1	※1
▲現在学校教育の危機欠陥は社会の実際を無視し生活の実際と没交渉なのである		1	※1
其の人とは抑も誰ぞ 伊丹中学に勤続十六年の古東謙吉氏		2	
動静		2	
青柳の一村見ゆる小川かな	愚哉	2	
用器画の實際化に必須の参考書として 民野好氏著 鋸工法		2	
鋸工法の一頁		3	
記念絵ハガキ学友会雑誌其他 活版 石版 コロタイプ 御注文に応ず 国産研究書図画教育通信社印刷部		4	※3
図画に感興を有する諸君は在職校及氏名を御知らせください講習其他催物の節広告を差し上げますから		4	※3
新刊 旧刊 本社にて取次す		4	※3
注文は学校直接に限る 直線文空器		4	※3
本社の展覧部		4	※3
針金製幾何形体模型		4	※3

第 199 信 大正 14 年 7 月 1 日

題名	筆者	頁	備考
▲我国は国土が狭くて人口が多い		1	※1
文検図画手工予備試験問題		1	
文検本試験日割 六月十二日官報所載		1	
其の人とは抑も誰ぞ 土浦中学に勤続十八年の石田益敏氏		2	

流れ越して一村見ゆる茂りかな	愚哉	2	
談論		2	
大竹拙三郎氏(広島高師教諭)曰く			
野津雲越氏(佐渡中学教諭)曰く		2	
記者曰く		2	
児島元三郎氏(京城一高女教諭)曰く		2	
山下一雄氏(福岡師範教諭曰く)		3	
動静		3	
夕月夜裏家々の蚊遣かな	愚哉	3	
染織術講話 其一	川村東陽	3	
石版術講話 其一	川村東陽	3	
教授法とやら教壇上での手振身振口の先で如何に達者な事を云ふたとて其れが何になる		3	※1
本社主催第十三回講習会 ●染色術		4	※3
記念絵ハガキ学友会雑誌其他 活版 石版 コロタイプ 御注文に応ず 本社印刷部		4	※3
図画に感興を有する諸君は在職校及氏名を御知らせください講習其他催物の節広告を差し上げますから		4	※3
直線支空器		4	※3
新刊 旧刊 本社にて取次す		4	※3
本社の展覧部		4	※3
針金製幾何形体模型		4	※3

第200信 大正14年8月10日発行

題名	筆者	頁	備考
▲我国は国土が狭くて人口が多い		1	※1
▲現在学校教育の危機欠陥は社会の實際を無視し生活の實際と没交渉なのである		1	※1
札幌一中に勤続二十八年の林竹次郎氏		2	

●十月二十五日迄染織膝工彩色写真石版コロタイプの講習を開催する 委細次号		2	※3
三條中学に勤続二十二年の秋保親美氏		2	
水戸高女に勤続十九年の飯田芳文氏		3	
熊谷高女に勤続十五年の田村龍吉氏		3	
動静		3	
夏木立中に古りたる社あり		3	
水筒 (筆洗用)		4	※3
記念絵ハガキ学友会雑誌其他 活版 石版 コロタイプ 御注文に応ず 本社印刷部		4	※3
図画に感興を有する諸君には在職校及氏名を御知らせ下さい 講習其他催物の節広告を差し上げますから		4	※3
直線支空器		4	※3
新刊 旧刊 本社にて取次す		4	※3
本社の展覧部		4	※3
針金製幾何形体模型		4	※3

第201信 大正14年8月15日発行

題名	筆者	頁	備考
▲我国は国土が狭くて人口が多い		1	※1
図画教員の将来に光輝あるか	川村東陽	1	
其の人は抑も誰ぞ 福島師範に勤続二十八年の服部保一氏		2	
●活版、石版、コロタイプの御註文は本社に於て需に応じます		2	※3
●文検予備試験合格者		2	
山田中学に勤続二十七年の濱田常成氏		3	※4
富田中学に勤続十九年の八重畑逸蔵氏		3	※4
本社主催第三十回講習会 染織術 七月二十九日より三十一日まで		3	
水筒 (筆洗用)		4	※3
記念絵ハガキ学友会雑誌其他 活版 石版 コロタイプ 御注文に応ず		4	※3

本社印刷部			
図画に感興を有する諸君は在職校及氏名を御知らせ下さい 講習其他催物の節広告を差し上げますから		4	※3
直線支空器		4	※3
新刊 旧刊 本社にて取次す		4	※3
本社の展覧部			
針金製幾何形体模型		4	※3

第202信 大正14年9月1日発行

題名	筆者	頁	備考
▲我国は国土が狭くて人口が多い		1	※1
▲現在学校教育の危機欠陥は社会の実際を無視し生活の実際と没交渉なのである		1	※1
(欠落)			
水筒(筆洗用)			※3※5
記念絵ハガキ学友会雑誌其他 活版 石版 コロタイプ 御注文に応す 本社印刷部			※3※5
図画に感興を有する諸君は在職校及氏名を御知らせ下さい 講習其他催物の節広告を差し上げますから			※3※5
直線支空器			※3※5
新刊 旧刊 本社にて取次す			※3※5
本社の展覧部			※3※5
針金製幾何形体模型			※3※5

第 203 信 大正 14 年 9 月 15 日発行

題名	筆者	頁	備考
▲我国は国土が狭くて人口が多い		1	※1
▲現在学校教育の危機欠陥は社会の実際を無視し生活の実際と没交渉なのである		2	※1
北野中学に勤続二十七年の中村堯興氏		2	
長崎中学に勤続二十五年の古殿保策氏		2	
本社主催第十四回講習会		2	※3
五條中学に勤続十八年の恩田秀雄氏		3	
松本女師に勤続十六年の藤岡亀三郎氏		3	
動静		3	
名月の松の木高き御堂あり	愚哉	3	
教授法とやら教壇上で手振身振口の先で何如に達者な事を云たとて其れが何になる		3	※1※6
水筒 (筆洗用)		4	
記念絵ハガキ学友会雑誌其他 活版 石版 コロタイプ 御注文に応ず 本社印刷部		4	※3
図画に興味を有する諸君は在職校及氏名を御知らせ下さい 講習其他催物の節広告を差し上げますから		4	※3
直線支空器		4	※3
新刊 旧刊 本社にて取次す		4	※3
本社の展覧部		4	※3
針金製幾何形体模型		4	※3

第 204 信 大正 14 年 10 月 1 日発行

題名	筆者	頁	備考
▲我国は国土が狭くて人口が多い		1	※1
▲現在学校教育の危機欠陥は社会の実際を無視し生活の実際と没交渉なのである		1	※1

外職彙報 十八 本庄中学教諭 宮本幸恵氏の新著 行詰つた現代の図画教育		2	
動静		2	
山里や日は照りながら夕立けり	愚哉	2	
本社主催第十四回講習会		2	※3
小学校教師の図画展 東京市教員が上野自治館で		2	
談論 上甲二郎氏曰く		3	
尋ね来て主なき家の空きの暮れ	愚哉	3	
沖縄県の産業問題		3	
外職彙報 十九 東奥義塾兼弘前女学校教諭 工藤農氏の不断の製作		4	
本社主催第十四回講習会		4	※3
初めは微々として漸次隆々たる本社の発展振		5	
水筒(筆洗用)		6	※3
記念絵ハガキ学友会雑誌其他 活版 石版 コロタイプ 御注文に応ず		6	※3
本社印刷部		6	※3
図画に感興を有する諸君は在職校及氏名を御知らせ下さい 講習其他催物の節広告を差し上げますから		6	※3
直線支空器		6	※3
新刊 旧刊 本社にて取次す		6	※3
本社の展覧部		6	※3
針金製幾何形体模型		6	※3

## 【註】

- ※1 題名・記名がない記事。 ※2 題名がない記事。 ※3 広告。 ※4 「其の人は抑も誰ぞ」続き。  
 ※5 途中が欠落しているため、ページ番号が不明である。 ※6 記事の後半部分が欠落。